

Handsome

発行人:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 福田一哉 編集責任者:植田寿雄 制作・編集:メディアコミュニケーション委員会 印刷所:東京印刷株

6月例会開催 「Try&Challenge」から「Creative&Action」へ



平成19年6月13日(水)、米子コンベンションセンター ビッグシップ 小ホールにて、メディアコミュニケーション委員会担当で6月例会が開催された。

開会にあたり、福田会長より「夢を叶えるためにはどうしたらいいのか?とにかく挑戦していくということに今年1年間、皆さんと一緒に頑張ってきたつもりです。夢が叶わないと思っているのは誰の責任でもなく自分の責任のはずです。在会中に夢を叶えるように皆さんに頑張っただければ私も幸せで、皆さんも幸せになれるはず。本当に今年1年ありがとうございました。」と全員に感謝と示唆を含めた挨拶があった。

次に、32期委員会活動報告があり、全8委員会の発表があった。それぞれ1年を振り返り、パワーポイントやフラッシュムービーを使い発表された。中には歌で1年を振り返る委員長もいて、各委員会の個性が出た報告だった。

その後、33期中田次年度会長の方針発表で、下記を提唱された。

スローガン『Creative&Action』～We are the Action Creator～ 創造的な行動・活動・実行。

テーマは 【魅力】

キーワードとして
 【クリエーション】 創造主としての明確なるビジョン
 【ディスカッション】 視野の拡大、見解の拡大、補完
 【共有】 活きた情報、知識、意識の共有
 【アクション】 変化に即応できる行動力
 【確認】 結果を次に活かす

中田次年度会長は最後に、「33期という周年と周年の間の年で、もう一度頭をクリアにして何が出来るか、何がしたいか考えながら1年を頑張っていただきたい。会員の皆さんと共に33期の青年中央会を作り上げていかないといけないというプレッシャーもあるが、委員会の活動なくしてはこの青年中央会の良さは語れない。会長という立場で委員長が動きやすいように活動していきたいと考えている。」と締めくくられた。

続いて33期次年度新理事の挨拶に移り、各新理事は緊張した面持ちであったが次年度の抱負を熱く語られた。次年度中央会活動の中心を担う新理事の抱負を伺って、また一つ中央会の「魅力」に触れた抱負の発表であった。
 (記事:安岡)



新理事抱負

総務委員会 手島武司 委員長

言いたいことはどんどん言わしていただきます。決定事項には従います。決まった事は確実に実行します。

広報委員会 石川達也 委員長

喋りが苦手な私ですが、来年この場で達者に喋っている私に期待してください。

政治行政委員会 松江智雄 委員長

副委員長を経験してからの3年間、自分なりに会の良いところ悪いところが見てきた。この経験を生かして魅力ある委員会にしていきたい。

ビジネス委員会 佐々木雅彦 委員長

明るく、楽しく、時には熱く激しく。皆さんと語っていける委員会にしたいです。押忍!!

魅力アクション委員会 加藤典史 委員長

遊んで、楽しく近所の魅力を発掘、紹介していきたいと考えております。宜しくお願い致します。

環境問題委員会 小椋崇永 委員長

環境問題について楽しい委員会を作って行きたいと思えます。頼りない委員長ですが宜しくお願い致します。

地域ビジョン委員会 松原 毅 委員長

自分の性格である一本道という筋をたてて、インパクトある委員会活動をしていきたい。委員長を受けたからには頑張ります。

会員力委員会 山本 徹 委員長

「時間を守る」「時間短縮」を念頭に、段取り良く委員会を運営したいと考えています。宜しくお願い致します。

中村臣成 会計理事

会費がどのように使われているか明確にし、会員のみなさんが数字に強くっていただきたいと思えます。

第32期委員会報告



地域スクラム委員会 土岐哲己 委員長

「地元サッカークラブ『SC鳥取』がJリーグ参入宣言したことを発端に、現在JFLのSC鳥取がJリーグに昇格し、全国区プロスポーツクラブが誕生することによる地域（圏域）の意識の変化ならびに、J昇格による地域の経済効果を検証する」ことを委員会活動の目的とした。SC鳥取を知ることから始めたが、Jリーグに昇格してしまうと米子では試合が開催されないことが判明し、米子にJリーグスタジアムが必要であるという提言を出すことにした。11月例会では「SC鳥取が街を変えろ！」と題しパネルディスカッション、後期は委員会を2班に分け、経済効果検証・プロセス考察を行った。試行錯誤の結果「米子にJリーグスタジアムを！」を完成させ、平井鳥取県知事に提出予定。夢・希望でなく実現へ！頑張り！ガイナレ鳥取!!



夢委員会 後藤太良 委員長

5月例会にて「論語に学ぶこころ、来たれ大人の寺子屋」と題し、畳の上で大変印象に残る例会を開催し、新入会員オリエンテーションでは新入会員と風呂で裸の付き合いをするなど、アイデアあふれる委員会活動をされた1年間を自筆の「夢」を背景に振り返り、最後に想いを歌で表現して締めくくられた。その歌詞を一部紹介します。

人はいつも幸せでありたいと願うもの
でも、それだけって気付くときがあって（中略）
あなたのためにできる事 そんな事を考えてみる
ひとりぼっちじゃないんだからって あなたののためにできる事
それは僕が進むこと（中略） あなたののためにできる事
そっとしてあげたい 気付かれなくてもいいから
だから明日何かしよ 夢みたものってありますか



政治行政委員会 牧田継夫 委員長

第32期の活動としては、「米子駅南開発」にTry&Challenge。米子駅の実態把握から始め、JR西日本米子支社から講師を招き勉強会を開催した。9月担当例会ではいま米子駅の開発がなぜ必要なのかを訴えかけ、そして衆議院議員赤澤亮正氏に「米子駅周辺の近未来像」と題して講演をいただき、またその後、青経連全体としての課題につなげていった。青経連では「地方都市における街づくり」と題し勉強会を開催。1月のオープン委員会では「まちづくり三法について」・「JR米子駅南北一体化と駅南開発について」を討論。政治行政委員会として米子駅にあったらいいなと思うものとして、スポーツ振興をメインにしたまちづくり・アジア圏を市場にしたまちづくり・医療をメインにしたまちづくり等を挙げました。



ビジネス交流委員会 畠山広幸 委員長

冒頭で年間の活動をまとめた映像が流れ、畠山委員長によるビジネス交流委員会の委員会活動報告がスタートした。今期は、交流・ビジネスを切り口に「志本主義ベンチャー」をテーマに委員会活動を展開してきた。できるだけ多くの方々「志」を聞いてみたいとの思いから、1年間で7人の講師を招き、その中でオープン委員会を5回開催した。

いずれの講師の方々も高い志をもっておられる方ばかりで、自分自身の気持ち、考えていること、夢などを話したい、伝えたい、聞いてもらいたいということが大事だと感じた。

中央会の活動は会員個々の気持ちの集積。会員個々が何を思い、どんな志を描くか。それが会の発展にもつながる。熱い熱い会にしていくには自分たちが熱くならなくてはならないと実感した。



エコチャレンジ委員会 木下 勝 委員長

年間の活動報告で、地元でリサイクル事業をしておられるエコマ商事ともみの木園に行かれた際、全国から集まったペットボトルのキャップを再生するための選別作業を見学し、建材としてベンチなどに再利用するなど、限りある地球環境資源を有効利用する事の大切さや、そういった活動が企業のイメージアップに繋がる第一歩になるということを考えさせられる話を報告されました。一年間の委員会活動への思い入れの強さか、報告の時間が他の委員長を大幅に上回る熱い報告でした。



メディアコミュニケーション委員会 景山周司 委員長

第32期の活動のメインとしては広報誌「雄飛・ハンサム」の制作。ハンサムの定例記事としての例会取材、また「BunBun訪問」では「委員会会議室だけでやっているのではない…現場でもやっているのだ！」を合言葉に毎月いろいろな委員会に取材訪問に伺った。現役会員にいま現在取り組んでいることを紹介いただく「Try&Challenge」。OB会員の方々に中央会での思い出・アドバイスを語っていただいた「PLAYBACK中央会」。取材にご協力いただいた方々、本当に感謝致します。中央会ホームページの充実、ガイナレ鳥取を題材に地域の活性化・スポーツ振興等を内容にした「中央会番組」の制作もおこないました。委員会のメンバーに恵まれ、みんなで作った1年間でした。ありがとうございました。



総務委員会 中村臣成 委員長

総務委員会のテーマはラガーマンであった中村委員長にふさわしく「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」であった。重点目標は①過去に捉われず、自ら考え判断し行動する、②形式よりも人ありきの活動に注力する、③会の円滑な運営の為の事務局の基礎を構築、の3本柱であった。和太鼓で盛り上がった「懇親会・卒会式」、鳴子で全員が一体となった「忘年例会」、アトラクション満載であった「レクリエーション例会」などを振り返るに、目標をクリアするに余りある活動内容であった。最後に委員会メンバーをはじめ、お世話になった方全員に感謝の言葉を述べられ、一年間やりきったという満足感と充実感であふれる雰囲気の中での報告であった。



わくわく発掘委員会 増井幸一 委員長

「自分たちが楽しくない事は観光客も楽しくない!!」、「自分たちが体験したことのない事は他人へ提案できない!!」、「観光資源発掘のためPDCAサイクルにて事業を考察する!!」をモットーに、いろいろやりたいことを話し合い数多くの活動をしました。

クワガタ採りやマリンスポーツやキャンプ等を計画し、実現はしなかったがこれらの体験を生かして皆生温泉へカプトムツアーの提案も行いました。また、邪馬台国山陰説の提唱者である田中文也先生同行のツアーも実施しました。我々は一年間の委員会活動を通じて、この地域の宝は高価値であり、地域全体がそのことに気づけばさらに価値に磨きがかかり地域として輝くはずだと思いました。

第17期卒会 伊藤 憲吉OB



第32期最後のPLAYBACK中央会は(株)寿電気の伊藤社長を訪問しました。卒会されて15年。当時の思い出や現況などを楽しく語っていただきました。

Q. 入会の動機についてお伺いいたします。

A. 異業種との交流を目的に入会しました。入会は昭和59年度。当時の会長は内海 敏さんでした。

Q. 当時の中央会の活動で印象に残っているものはありますか？

A. 卒会するとき、大山の榎水で大騒ぎしたのが印象的です。中央会は他の経済団体と比べても堅苦しくないつき合いができ、「男が男に惚れる」ような損得なしのつき合いができました。

Q. 現在の中央会会員に対して一言お願いします。

A. 月に例会・委員会が2回あるが、生活スタイルをそれに合わせていくことが重要だと思います。出席しなければ得るものは何も無いし、入っている意味も無いと思います。

Q. 現在、企業経営において特に大切に思われていることは何ですか？

A. 不透明な時代を心配してもどうしようもない。私自身まだまだ足りないが「物事に感謝する気持ち」が大切だと思います。

「ストレスは溜まらないよ」と明るく話される伊藤社長の秘訣は、家族との小旅行と18ヶ月間続けている「倫理法人会」での自己研鑽とのこと。おすすめの旅行先はしまなみ街道の生口(いくち)島にある「しまーの刺身定食」と「ドルチェのジェラートアイス」。

お昼前の取材だったこともありますが、是非行ってみようと思った取材班でした。 (記事:岩田 インタビュー:内藤)

**メディアコミュニケーション委員会
桑本 功一 会員**



最後になる今回は、私の会社の取り組みを通して環境問題と営業手法についてご紹介いたします。

昨年11月に社名変更を行った当社は、今までの設計事務所という固い枠組を取り

払い環境コンサル企業を目指しました。

ご存知のように昨年は耐震偽装問題を皮切りにいろいろと負のイメージが付きまといましたが、それより我々が急務と考えたのは環境問題でした。中央会生活でいろいろとエコ事業に接し、環境意識は芽生えたつもりでいたのですが、最大の環境負荷である“建物”はないがしろにされてきました。イニシャルコストを重要視するあまり、見えないランニングコストは黙殺され続けてきました。

そんな中、他との差別化の意味もあり、当社では今までの“断熱”ではなく“遮熱(熱反射)”という新しい切り口で省エネを発案しました。公共工事が激減する中、早い段階で新しい方向を見据えて民間にシフトした結果、不況のおりにあって人員削減することなくなんとかやってこれました。

中小企業において、営業経費というのは非常に高いウェイトを占めているのに今までは手の届く範囲での営業しかできませんでした。一人一人は一馬力。でも協力してもらえ仲間を増やせばソレは百馬力にも千馬力にもなります。協力者にも営業メリットを与えれば、やりようによっては千人の営業を雇っているのと同じ効果が得られます。「ロコミ」の拡大版と考えればいいのでしょうか？ただ、相手に動いてもらうためには自分達はそれ以上に動く必要があります。長崎だろうと名古屋だろうと、要望があれば説明に上がります。

足で稼ぐ営業は限界があります。協力者が全国に増えれば、各地に営業所を置いたようなものです。もちろん営業ツールたるHPやFAX-DM等出来る事はすべてやるべきです。

これからは地産他消です。ツールを上手く使い、県外で戦って行きたいものです。



委員会 BunBun 訪問



~ 委員会は会議室だけでやっているのではない… 現場でもやっているのだ!! ~

● **メディアコミュニケーション委員会** ●



今月の委員会BunBun訪問では、トリを努めるにふさわしくメディアコミュニケーション委員会の、担当例会に向けての裏方の様子をお送りする。委員会は6月5日(火)

ウェルネス・インほうき路で、担当例会は6月13日(水)米子コンベンションセンター ビッグシップ 小ホールにて行われた。

事前より着々と準備を進めていた我々はハンサム・中央会番組と他にも多くの業務を担っていたため、事前打合せを綿密に行うことによって事前リハーサルなしで行こう、と決めた。

この所当委員会の担当例会は6月を受け持っているが、中海テレビ放映も考え演出が多めになっていた。今年は放映も考えるがあくまで発表が主体と考え、出来るだけ発表時間を多く取るよう、移動時間も出来るだけ少なく取る様配慮した。

当日は忙しいメンバーに配慮し、時間差集合を行いながらも13時の初回集合には8名の会員が集合し、大仕事の前の腹ごし

らえ。5時にはすでに夕食があると思いつつペース配分無視の暴食?にて英気を養った。

事前準備、リハーサルも無事終了し、岩田会員の司会のもと6月例会が開始された。

今回のテーマとして、裏方に徹するメディコミ会員も出来るだけ発表を見ようというのがあり、受付も途中から会場内で確認するように計画していた。

委員会報告、33期会長挨拶、33期理事の抱負と予定より若干早いペースで進行した。これも一重に32期委員長の方々、事前準備の賜物だと感謝したい。

担当例会も無事閉会し、撤収も2時半ごろには終わり、疲れをねぎらうために2次会に場所を移して今年度最もおいしいと思われる?麦酒を味わった。

最後にこの場をお借りして、タイトなスケジュールの中すばらしい発表をさせていただいた32期委員長の方々、並びに33期会長、理事の方々、そして定刻での開催にご協力いただいた会員皆様へ担当委員会として厚くお礼を申し上げます。

(記事:桑本)



青経連フォーラム開催 まちづくりフォーラム～米子駅の未来を考える～



平成19年6月17日(日) ホテルサンルート米子において鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会(青経連)主催の「まちづくりフォーラム～米子駅の未来を考える～」が行われた。当日は赤澤亮正衆議院議員、野坂康夫市長、当会OBでもある中村昌哲市議、中田利幸市議と共にわれらの福田会長がパネリストをつとめ、佐伯新日本海新聞社西部本社代表によるコーディネートのもと約200名の参加者を迎えスタートした。

まず、米子駅を取り巻く現状説明と共に、米子駅整備における市の施策に具体性が欠けているのでは?という問題提起があり、その後各パネリストから「1日平均4200人と乗降客が少ない為予算がかけられない。」「山陰の他の主要駅と比べてもバリアフリーの点で遅れている為に利用者にとって交通結節点として機能していない。」といった意見が述べられた。

そして現在の行政の方向性は、費用対効果ではなく効果対費用の時代であり、市民の最も望む効果がバリアフリー化であることは明白であるので、それをいかに少ない費用で実行するかが行政に問われている。その為にまず、使いやすい駅にする事、道州制を見据え中海圏・関西圏との連携システム作りや駅舎改修を他の公共施設との一体化する等、用いるあらゆる手段を考えてバリアフリー化の早期実現を目指そうと官民を超えた白熱した議論が交わされたのでした。(記事:竹谷)

トライアスロン実行委員長としての抱負



実行委員長 武海 章

今年度、第27回全日本トライアスロン皆生大会に協力する当会ボランティア組織の実行委員長を務めさせていただき、武海です。

当会が、皆生トライアスロンにボランティアとして参加する発端となったエイドステーション運営をA S部として組織してから3年目となりました。

ボランティア部・マラソン部との三本柱での協力体制が、非常に順調且つ、有効に進捗する様になり、これから益々当会のトライアスロンへの取り組みに期待が持てる状況となっております。今年度もこの良い流れを停滞させる事無く、今後へ繋がる運営を心掛けたいと強く念じるところであります。と同時に、「無理」・「無駄」・「無関心」を排除し、会員一人一人が率先して楽しく参加できる体制作りにも注力する所存です。

各部の部長及び、メンバーとなる会員の皆様と共に、「無垢」・「無私」・「無償」の心を持って無我夢中に邁進したいと思っておりますので、どうぞご協力の程、宜しくお願い致します。

6月委員会報告

総務委員会

平成19年6月6日(水) 於:ウェルネス・インほうき路 出席者/16名
議題・事務局運営に関する考察並びに実践について
・委員会運営の為の鳥取県西部中小企業青年中央会議事法勉強会について
・7月総会・卒会式について ・打ち上げ旅行について

エコチャレンジ委員会

平成19年6月5日(火) 於:ウェルネス・インほうき路 出席者/7名
議題・委員会報告まとめ ・研修旅行、その他

ビジネス交流委員会

平成19年6月7日(木) 於: 炉端 かば 出席者/10名
議題・一年間の活動のまとめ

各メンバーから一年間の委員会活動の感想と反省を述べてもらう

メディアコミュニケーション委員会

平成19年6月5日(火) 於:ウェルネス・インほうき路 出席者/14名
議題・ハンサムの特集 ・HPについて ・中央会番組について
・6月担当例会について ・33期会員手帳について
・卒会寄稿文、委員会報告書について

政治行政委員会

平成19年6月5日(火) 於:海潮園 出席者/9名
議題・フォーラムについて 全体のスケジュール確認、役割分担の打ち合わせ
・フォーラムのPRとして ポスター、チラシ配布など

わくわく発掘委員会

平成19年6月6日(水) 於:海潮園 出席者/12名
議題・6月わくわく体験スケジュール確認
6月19日(火) あご掬いツアー
6月24日(日) 山陰の味は日本誕生を? Waku-Wakuツアー
・一年間委員会活動のまとめ 委員長より

地域スクラム委員会

平成19年6月7日(木) 於:米子ニューアーバンホテル 出席者/8名
議題・提言書の最終稿確認(3項目)
・6月例会にて発表する委員会報告の確認
・打ち上げの検討

夢委員会

平成19年6月5日(火) 於:まつだ家 出席者/13名
議題・大山登山について 6月30日(土)
・委員会のまとめ 一年間の感想等

※役員会報告、連絡事項、会員拡大の件は各委員会とも行われています。詳細については各委員長までご参照ください。

7月役員会報告

7月新旧役員会が平成19年7月2日(月)米子ニューアーバンホテルにて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・6月例会報告の件
- ・7月総会、卒会式、懇親会開催の件
- ・8月例会開催の件
- ・第27回全日本トライアスロン皆生大会の件
- ・その他

平成19年度総会・卒会式、懇親会案内

と き:平成19年7月12日(木) 18:15～開会
と ころ:ホテルサンルート米子
内 容:総会、卒会式(18:15～19:15)
懇親会(19:30～)
担 当:新旧総務委員会

7月ハンサム編集後記



ついに32期メディアコミュニケーション委員会での最後のハンサム発行となりました。広報誌は「雄飛」から始まり、ハンサム11回の発行でした。委員会のメンバーが毎月違う個々の分担を責任を持って仕上げてくれました。編集会議、校正2回と時間が取られることが多かったですが、自分たちが作ったものが形になることの喜びを感じたと思います。連載ではOB会員の方々、現役会員の方々、その他の記事でも多くの方々取材協力等でお世話になりました。広報誌を作る大変さ、出来たときの喜び。委員会の活動での重要なポイントだと思いました。

最後になりましたが、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。心より感謝いたします。(委員長:景山周司)